

第 6 次 地 域 管 理 経 営 計 画 書
第 6 次 国 有 林 野 施 業 実 施 計 画 書

(佐賀西部森林計画区)

計画期間

自	令和 5 年 4 月 1 日
至	令和 1 0 年 3 月 31 日

九 州 森 林 管 理 局

第 6 次 地 域 管 理 經 営 計 画 書

(佐賀西部森林計画区)

計画期間

自	令和 5 年 4 月 1 日
至	令和 10 年 3 月 31 日

九 州 森 林 管 理 局

はじめに

我が国の国土面積の2割、森林面積の3割に当たる国有林野の管理経営は、森林経営の用に供するものとされた国有財産として、①国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、あわせて、②林産物を持続的かつ計画的に供給し、③国有林野の活用によりその所在する地域の産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目標として行うこととされている。

このような中で、森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源の涵養^{かん}に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等の面での期待が高まるなど、公益的機能の発揮に重点を置きつつさらに多様化してきた。特に、国有林野に対しては、地球温暖化防止、生物多様性の保全の面での期待が大きくなってきた。加えて、国有林野と民有林野を通じた公益的機能の発揮が強く期待されているものの、地域によっては、国有林野に隣接する民有林野において十分な整備や保全が行われていない状況もみられる。また、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、我が国の林政は、森林・林業の再生に向け、大転換を進めており、国有林野事業については、民有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献することが求められている。

こうしたことを踏まえ、国有林野事業については、公益的機能の発揮のための事業や民有林への指導やサポート、木材の安定供給等の事業を、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、一層計画的に実施していくため、平成25年度から、それまでの特別会計により企業的に運営する事業から一般会計において実施する事業に移行した。

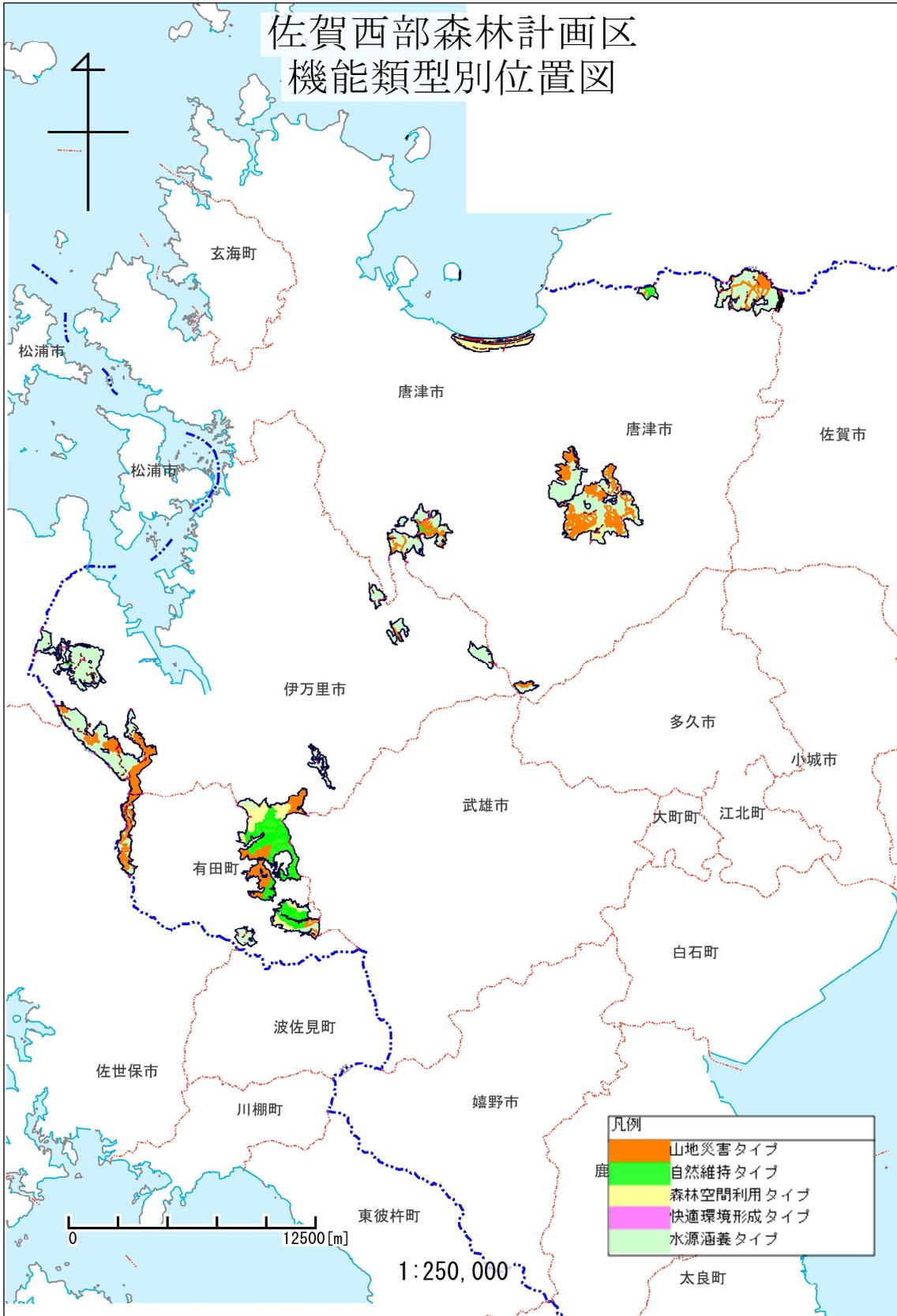
加えて、我が国では、多くの森林が利用可能な段階を迎える中で、民有林においては、森林の経営管理の集約化が喫緊の課題となっており、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため、市町村が森林所有者から森林の経営管理の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に再委託を行い、林業経営の集積・集約化を推進するとともに、再委託できない森林及び再委託に至るまでの森林においては、市町村が公的管理を行う森林経営管理制度が平成31年4月から導入された。あわせて、市町村が実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、平成31年3月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、同年4月から一部が施行された。

これらを踏まえ、国有林野事業は、冒頭の目標の下、森林・林業や国有林野事業に対する国民の多様な要請と期待を踏まえつつ、一般会計において国民共通の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林」とするよう、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して林業の成長産業化の実現に向け貢献するための取組を進める。

本計画は、国有林野の管理経営に関する法律（昭和26年法律第246号）第6条第1項の規定に基づいて、九州森林管理局長が、国有林野の管理経営に関する基本計画に即し、国有林の地域別の森林計画と調和させ、あらかじめ国民の意見を聴いた上で、今後5年間の佐賀西部森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的な事項について定めたものである。

佐賀西部森林計画区における国有林野の管理経営は、関係住民の理解と協力を得ながら、さらに、関係行政機関と連携を図りつつ、この計画に基づいて適切に行う。

佐賀西部森林計画区 機能類型別位置図



目 次

1	国有林野の管理経営に関する基本的な事項	1
(1)	国有林野の管理経営の基本方針	1
①	森林計画区の概況	1
②	国有林野の管理経営の現状及び評価	1
③	持続可能な森林経営の実施方向	2
④	政策課題への対応	3
(2)	機能類型に応じた管理経営に関する事項	3
①	機能類型ごとの管理経営の方向	3
②	地区ごとの管理経営の方向	5
(3)	森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた 貢献に必要な事項	6
①	林業の成長産業化等に向けた技術開発・実証と普及	6
②	林業事業体の育成	7
③	民有林と連携した施業や民有林材との協調出荷の推進	7
④	森林・林業技術者等の育成と森林総合監理士（フォレスター） 等による技術支援	7
⑤	その他	7
(4)	主要事業の実施に関する事項	7
①	伐採総量	8
②	更新総量	8
③	保育総量	8
④	林道の開設及び改良の総量	8
(5)	その他必要な事項	8
2	国有林野の維持及び保存に関する事項	8
(1)	巡視に関する事項	8
(2)	森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項	9
(3)	特に保護を図るべき森林に関する事項	9
(4)	その他必要な事項	9
3	林産物の供給に関する事項	9
(1)	木材の安定的な取引関係の確立に関する事項	9
(2)	その他必要な事項	10
4	国有林野の活用に関する事項	10
(1)	国有林野の活用の推進方針	10
(2)	国有林野の活用の具体的手法	10
(3)	その他必要な事項	10

5	公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び 保全を行うことが相当と認められる私有林野の整備及び保全に関する事項	10
(1)	公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項	10
(2)	国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる 私有林野の整備及び保全に関する事項	10
6	国民の参加による森林の整備に関する事項	11
(1)	国民参加の森林に関する事項	11
(2)	分収林に関する事項	11
(3)	その他必要な事項	11
7	その他国有林野の管理経営に関し必要な事項	11
(1)	林業技術の開発、指導及び普及に関する事項	11
(2)	地域の振興に関する事項	11
(3)	その他必要な事項	12

1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

(1) 国有林野の管理経営の基本方針

国有林野の管理経営は、国有林野の管理経営に関する基本計画に即するとともに、国有林の地域別の森林計画と調和して、機能類型区分等による公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して林業の成長産業化の実現に向け貢献することを基本方針とする。

① 森林計画区の概況

本計画の対象は、佐賀西部森林計画区を管轄区域とする国有林野 5,182ha(不要存置林野は 4ha)であり、佐賀県の北西部に位置している。

本計画区は、水源かん養保安林が全体の 80%に達し、下流域の水瓶として重要な役割を担っているほか、虹の松原をはじめとして優れた森林景観にも恵まれていることから、森林レクリエーションや保健休養の場として多くの人に利用されている。

② 国有林野の管理経営の現状及び評価

本計画区の国有林は、佐賀森林管理署が管理経営しており、本計画の対象とする国有林野面積は 5,182ha で計画区全体の森林面積 44,580ha に対して 12%を占めている。

主な樹種としては針葉樹はスギ、ヒノキ、広葉樹ではカシ、クヌギなどとなっている。

また、林相別に見ると針葉樹林 2,811ha、針広混交林 488ha、広葉樹林 1,811ha となっている。

蓄積は 1,273 千 m³で計画区全体の蓄積 14,713 千 m³に対して 9%を占めている。

人工林面積は 2,755ha で人工林率は 56%となっている。

森林の種類は、普通林が 719ha で 14%、制限林が 4,463ha で 86%となっている。

なお、制限林の 98%が保安林であり、そのうち水源かん養保安林が 94%となっている。

○ 佐賀西部森林計画区内の森林資源状況 (単位：ha、m³)

区分	人工林	天然林	その他	合計
面積	2,755	2,141	286	5,182
蓄積	917,612	354,655	252	1,272,519

注：合計は、四捨五入の関係で必ずしも一致しない。

主要施策に係る前計画の計画量と実行量について下表に示す。

伐採立木材積に関して、主伐は契約林の公売が順調に推移したことから、計画量を概ね達成した。間伐は林道が自然災害を受けたことによる一部実行の見合わせがあったこと等から計画量を下回った。

造林面積に関して、更新対象となった箇所から実施したが、伐採が後半に集中したことや、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた立木販売の搬出期間の延長措置などにより今計画期間中の造林実行が少なくなった。

林道等の開設又は改良に関して、林道の開設については優先度の高いものから実行したが、入札不調等により計画を下回った。林道の改良については入札が順調に推移し、安全で円滑な通行を確保する観点から計画量を上回る実行となった。

○ 主要施策に係る計画量と実行量

項目	計画	実行
伐採立木材積	166,000 m ³	123,139 m ³
主伐	65,222 m ³	57,790 m ³
間伐	100,778 m ³	65,349 m ³
造林面積	113 ha	57 ha
人工造林	113 ha	56 ha
天然更新	— ha	1 ha
林道等の開設又は改良	開設：9.25 km 改良：5箇所	開設：1.1 km 改良：6箇所

注) 計画の臨時伐採量は主伐に含めた。

③ 持続可能な森林経営の実施方向

国有林野の管理経営に当たっては、開かれた「国民の森林」の実現を図り、現世代から将来世代へ森林からの恩恵を伝えるため、住民の方々の意見を聴き、機能類型区分や森林の適切な整備・保全等による持続可能な森林経営に取り組んでいく。

また、持続可能な森林経営については、日本はモントリオール・プロセスに参加しており、この中で森林経営の持続可能性を客観的に把握し評価するための7基準（54指標）が示されている。本計画区の国有林野について、この基準を参考に取り組んでいる施策及び森林の取扱方針を整理すると次のとおりとなる。

I 生物多様性の保全	地域の特性に応じた多様な森林生態系を保全していくため、針広混交林等からなる多様な林相の森林を整備及び保全していくとともに、貴重な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保護・保全するほか、施業を行う場合でも適切な配慮を行う。関連する主な施策として、厳格な保全・管理を行う保護林のモニタリング調査等を通じた適切な保全・管理等を推進するとともに、原生的な天然林や里山林、溪畔林、保護樹帯等を各々の林相に応じ適切な整備・保全を行い、森林生態系のネットワークの構築を図る。
II 森林生態系の生産力の維持	森林としての成長力を維持し健全な森林を整備していくため、間伐等の適切な実施と伐採後の更新確保による健全な森林の整備とともに、公益的機能の発揮と両立した木材の生産を行う。関連する主な施策として、計画、設計、施工の各段階において森林生態系との調和を図りつつ、林道（林業専用道を含む。以下同じ。）及び森林作業道の適切な組合せによる路網の計画的な整備を推進する。
III 森林生態系の健全性と活力の維持	外部環境から受ける影響から森林の劣化を防ぐため、森林病虫害や山火事等から森林を保全するとともに、被害を受けた森林の回復を行う。関連する主な施策として、松くい虫被害のまん延防止のため、薬剤による防除、伐倒駆除等に取り組むとともに、シカによる森林被害の状況の把握に努め、その結果を踏まえ、被害防除及びシカの捕獲を推進する。

IV 土壌及び水資源の保全と維持	降雨に伴う侵食等から森林を守るとともに、森林が育む水源の涵養のため、山地災害により被害を受けた森林の整備、復旧や公益的機能の維持のために必要な森林の保全を行うとともに、森林施業においても裸地化する期間の短縮や尾根筋や沢沿いでの森林の存置を行う。関連する主な施策として、安全・安心に暮らせる環境づくりを目指して、民有林と国有林が連携した効果的な治山対策に取り組む。
V 地球の炭素循環への森林の寄与の維持	地球温暖化防止に貢献するため、温室効果ガスの吸収源と位置づけることのできる森林を確保するため育成林の整備を推進するとともに、天然生林の保全を行うほか、森林整備の円滑な推進と炭素の貯蔵庫としての機能を維持するため木材利用を推進する。関連する主な施策として、除間伐を主体に森林整備を推進するとともに、治山事業における間伐材等の利用促進や間伐材を使用した紙製品の普及に取り組む。
VI 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進	国民の森林に対する期待に応えるため、森林が有する多面的機能の効果的な発揮に取り組むとともに、森林浴や森林ボランティア、環境教育等森林と人とのふれあいの確保のためのフィールドの提供や森林施業に関する技術開発等に取り組む。関連する主な施策として、「レクリエーションの森」のPRや施設整備等に努めるなど、「国民の森林」として充実を図るとともに、学校のカリキュラムへの森林環境教育の導入、「遊々の森」の設定の推進、教職員を対象とした森林教室の実施等、学校との連携の強化に取り組む。
VII 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組	I～VIで記述した内容を着実に実行し「国民の森林」として開かれた管理経営を行うため、国有林野に関連する法制度に基づく各計画制度の適切な運用はもとより、管理経営の実施に当たっては国民の意見を聴きながら進めるとともに、モニタリング等を通じて森林資源の状況を把握する。関連する主な施策として、国有林モニターを活用し、国有林野事業等に対する意見、要望等を聴取するとともに、国有林野事業の運営等について国民の理解の促進を図る。

④ 政策課題への対応

本計画区の国有林では、国土保全や水源涵養等の公益的機能の維持増進、林業の成長産業化の実現に向けた取組、森林環境教育や森林とのふれあい、国民参加の森林づくりの推進、地球温暖化防止や生物多様性の保全などの政策課題に対応している。

林業の成長産業化の実現に向けた取組としては、低コストで効率的な施業技術の普及、計画的な事業の発注や技術支援による林業事業者の育成、民有林・国有林一体となった森林共同施業団地の設定と取組の充実、市町村をはじめとする民有林関係者に対する技術的支援に取り組む。

(2) 機能類型に応じた管理経営に関する事項

① 機能類型ごとの管理経営の方向

公益的機能の維持増進を旨とした管理経営を行うため、

- ・山地災害防止タイプ（土砂流出・崩壊防備エリア、気象害防備エリア）
- ・自然維持タイプ

- ・森林空間利用タイプ
- ・快適環境形成タイプ
- ・水源涵養^{かん}タイプ

の機能類型区分を行い、重視すべき機能の発揮を目的とした管理経営を行う。

なお、地域別の森林計画における公益的機能別施業森林との関係は下表のとおり。

○ 機能類型と公益的機能別施業森林の関係

機能類型		公益的機能別施業森林			
		水源涵養 ^{かん} 機能維持 増進森林	山地災害 防止機能/ 土壌保全 機能維持 増進森林	快適環境 形成機能 維持増進 森林	保健機能 維持増進 森林
山地災害防止 タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	○	○		
	気象害防備エリア	○	○	○	
快適環境形成タイプ		○		○	
水源涵養 ^{かん} タイプ		○			
自然維持タイプ		○	○		○
森林空間利用タイプ		○	○		○

機能類型区分に応じた管理経営にあたっては「管理経営の指針」（別冊）によるほか、次の点に留意して、個々の森林の自然条件や社会的条件を踏まえて適切に行う。

なお、各機能の発揮を図るために導入する林相の維持・改良等に必要な施業により生じる木材については、有効利用を図る。

また、齢級構成の平準化やニーズに応じた主伐を計画的に行うことにより木材の供給を図る。

ア 山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプに関する事項

山地災害防止タイプは、土砂の流出・崩壊、落石等の山地災害による人命・施設の被害の防備その他災害に強い国土基盤の形成に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、次の事項に留意して、保全対象と当該森林の位置的関係、地質や地形等の地況、森林現況等を踏まえた適切な管理経営を行う。

山地災害防止タイプのうち、土砂流出・崩壊防備エリアでは、根系が深くかつ広く発達し、常に落葉層を保持し、適度の陽光が入ることによって下層植生の発達が良好であり、必要に応じて土砂の流出・崩壊を防止する治山施設等が整備されている森林を整備の目標とする。

山地災害防止タイプのうち、気象害防備エリアでは、樹高が高く下枝が密に着生しているなど遮蔽能力が高く、諸被害に対する抵抗性の高い樹種によって構成される森林を目標とする。

イ 自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプに関する事項
自然維持タイプは、原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等自然環境の保全に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、原則として自然の推移に委ねるとともに、生物多様性の保全等に配慮した管理経営を行う。

ウ 森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプに関する事項
森林空間利用タイプは、スポーツ又はレクリエーション、教育文化、休養等の場及び優れた景観の提供に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの保健・文化的利用の形態に応じた管理経営を行う。

エ 快適環境形成タイプにおける管理経営の指針その他快適環境形成タイプに関する事項
快適環境形成タイプは、騒音の低減や大気の浄化、木陰の提供等による気象緩和等地域住民の居住環境を良好な状態に保全する機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの機能に応じた管理経営を行う。

オ 水源涵養タイプにおける管理経営の指針その他水源涵養タイプに関する事項
水源涵養タイプは、国民生活に欠かせない良質で豊かな水の供給に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、渇水緩和や水質保全等の水源涵養機能を高めるため、浸透・保水能力の高い森林土壌の維持及び根系や下層植生の発達が良好で諸被害に強い森林の整備を目標として管理経営を行う。なお、これら条件の維持できる範囲で森林資源の有効利用に配慮する。

② 地区ごとの管理経営の方向

ア 作礼山・七山地区(106～116、119～124林班)

唐津市の南東に位置する作礼山(887m)を南端とした高原性の緩慢な地形となっている一帯と七山北部の福岡県境の山頂部からなる。山麓から山腹にかけてはスギ、ヒノキの人工林が主体で生育も良好で、全域が水源かん養保安林に指定されており、水源涵養機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。一部急峻な森林については、地質の大半が花崗岩地帯で崩れやすく、山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。また、円頂の台地となっている作礼山の山頂付近は、天然の湖沼と自然林とが優れた景観を呈しており、湖畔には野営場等の施設も整備され、保健文化機能を重視すべき森林であることから「森林空間利用タイプ」に区分して管理経営を行う。

イ 岸岳地区(101～105、117林班)

唐津市の南方に位置する岸岳(420m)を中心とした地区である。山麓から山腹にかけてはスギ、ヒノキ人工林が主体で生育も良好であり、水源涵養機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。

また、岸岳山頂には岸岳城跡があるほか、飛地の八幡岳(764m)とともに山頂からの展望と天然林の森林美に優れておりハイキングの好適地となっているため、自然環境の保全・形成を図ることを重視すべき森林であることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営

を行う。

さらに、尾根沿いの急傾斜地等については、山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

ウ 虹の松原地区（125～127林班）

佐賀県西北端の唐津湾沿いにある海岸林及び高島・神集島の一部で、クロマツが主体である。日本三大松原の一つと言われ、白砂青松の景観は特に優れており、観光、海水浴等の入込者が多い。また、防風、潮害防備保安林としての機能も果たしている。保健文化機能と併せて生活環境保全機能を重視すべき森林であることから「森林空間利用タイプ」に区分して管理経営を行う。

エ 国見山地区（1022～1038林班）

伊万里市の南西部に位置する国見山（776m）を最高峰として佐賀、長崎県境を南北に走る山地である。県境から東側の斜面と国見山、山寺山系を含む一帯はスギ、ヒノキの人工林が主体であり、全域が水源かん養保安林に指定されている。また、地質は、玄武岩質の緩慢な丘陵性地形で、国見山山系の南東部斜面は、急傾斜地となっており山地災害防止機能や水源涵養機能を重視すべき森林であることから「山地災害防止タイプ」又は「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。

オ 有田地区（1001～1021林班）

有田町の北方に位置する青螺山（599m）、黒髪山（516m）を主峰とする山地と周辺に散在する小団地からなっている。この区域は、地形が複雑で急傾斜地が多く、いたるところに流紋岩、集塊岩類の基盤の露出が見られ、一帯の天然林が保健保安林に指定されているとともに、黒髪山県立自然公園として親しまれており、自然環境の保全・形成を重視すべき森林であることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。また、大半が水源かん養保安林に指定されており、下流部は、急峻で住宅地や人為の施設に接近しており、山地災害防止機能や水源涵養機能を重視すべき森林であることから「山地災害防止タイプ」と「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。

（3）森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項

民有林関係者と連携して推進する森林の流域管理システムの下、森林の有する多面的機能の持続的発揮を基本としつつ、我が国の森林・林業の再生に貢献していくため、県・市町村等との密接な連携を図るとともに、国有林の組織・技術力・資源を活用し、民有林行政の支援等に積極的に取り組む。

特に、民有林においては、森林経営管理制度が導入されたことから、国有林においてはこの制度が円滑に機能するよう積極的に取り組む。

また、これらを通じて、木材の生産から利用までの全ての段階において生産性向上やコストの低減、歩留まりの向上等による林業及び木材産業の成長産業化の実現に貢献し、地域経済の発展や山村地域の振興に寄与するよう努める。

① 林業の成長産業化等に向けた技術開発・実証と普及

産学官連携の下、林業の低コスト化に向けた技術開発の推進に努め、特に、特定母樹

等の成長に優れた苗木の活用等による低コスト造林技術の開発・実証と定着を図る。

国有林野事業において開発、改良された林業技術については、現地検討会の開催、モデル林、各種試験地等の設置等を通じて、地域林業関係者等への普及・定着を図る。

② 林業事業体の育成

民有林行政と連携しつつ、林業事業体の育成のため、計画的な事業の発注に努める。

あわせて、森林経営管理制度の定着に向けては、民有林において事業を実施する意欲と能力のある林業経営者の育成が重要であることから、国有林野事業に係る事業を委託する場合にはこうした林業経営者の受注機会の拡大に配慮する。

さらに、流域で生産された木材の利用促進、木材の安定供給システム販売の推進及び、ニーズに応じた安定供給ができるよう木材資源情報の交換に努める。

③ 民有林と連携した施業や民有林材との協調出荷の推進

森林共同施業団地の設定により、民有林・国有林一体となった効率的な路網の整備、計画的な間伐の実施、民有林材との協調出荷等に努める。

④ 森林・林業技術者等の育成と森林総合監理士（フォレスター）等による技術支援

現地研修会の実施や研修フィールドの提供、森林総合監理士（フォレスター）の育成等を通じて、民有林の人材育成支援に努める。また、県と連携して市町村の森林・林業行政等に対する技術支援に積極的に取り組む。

⑤ その他

国民の森林としての管理経営を推進する観点から、「虹の松原」等国有林をフィールドとした、一般市民の参加による森林環境教育の推進、生物多様性の保全に係る取組の推進、安全・安心の取組に係る情報提供等に努める。

（４）主要事業の実施に関する事項

本計画及び前計画期間における伐採、更新、保育及び林道の事業総量は以下のとおりである。

事業の実施に当たっては、効果的かつ効率的な実施に努め、国土の保全、自然環境の保全、生物多様性の保全等に十分配慮しつつ、森林吸収源対策として間伐に積極的かつ着実に取り組むとともに、針広混交林化、複層林化、長伐期化や里山の整備等、地域の現況を踏まえ、資源の循環利用を行いながら多様で健全な森林の整備・保全を推進する。

なお、森林資源の成熟に伴い主伐が増加していく中で、その実施に際しては、自然条件や社会的条件を考慮して実施箇所を選定するとともに、造林コストや花粉の少ない森林への転換、鳥獣被害等に配慮しつつ、公益的機能の持続的な発揮と森林資源の循環利用の観点から確実な更新を図る。

更新・保育については、伐採事業との一体的な実施や新たな林業技術の導入等による造林・育林作業の低コスト化に取り組む。

林道等の路網については、林産物の搬出、森林の育成のみでなく、森林の適切な保全管理等を効率的に行うために必要であり、森林の公益的機能が高度に発揮されるよう計画的に整備する。その際、特に自然・社会的条件の良い森林において重点的な整備を推進する。

また、労働災害がなく、健康で明るく働けるように労働安全衛生の確保に努めるとともに、計画的な事業の発注等により林業事業体の育成を図る。

① 伐採総量

(単位：m³、ha)

区 分	主伐	間伐	臨時伐採量	計
本 計 画	57,715	92,983 (1,002)	10,302	161,000
前 計 画	59,004	100,778 (986)	6,218	166,000

注：（ ）は、間伐面積である。

② 更新総量

(単位：ha)

区 分	人工造林	天然更新	計
本 計 画	132	—	132
前 計 画	113	—	113

③ 保育総量

(単位：ha)

区 分	下刈	つる切	除伐	ぼう芽整理
本 計 画	501	109	136	—
前 計 画	380	108	65	—

④ 林道の開設及び改良の総量

区 分	開 設		改 良	
	路線数	総延長 (m)	箇所数	総延長 (m)
数 量	4	3,620	6	8,400

(5) その他必要な事項

該当なし。

2 国有林野の維持及び保存に関する事項

(1) 巡視に関する事項

① 山火事防止等の森林保全巡視

本計画区は、佐賀県西北端の唐津湾沿いにある海岸林の虹の松原の風致探勝林等があり、

市郡部からのレクリエーション等を目的とした森林への入込利用者が多く、特に、春季は山菜採りのシーズンと乾燥期、季節風等が重なり、山火事発生危険が増大する。このため、地元住民及び関係行政機関等と連携を密にして山火事防止のPR、啓発活動を行うとともに、森林保全巡視を強化し、山火事等の未然防止に万全を期する。

また、廃棄物の不法投棄については、関係行政機関、森林保全巡視員及びボランティア団体との連携の強化を図り防止に努める。

② 境界の保全管理

境界標の巡検及び境界巡視を確実にを行い、境界の保全管理に努める。

(2) 森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項

近年、本計画区では、依然として松くい虫被害が発生しており、今後とも「国有林松くい虫被害対策実施計画」に基づき、被害の防止に努めることとする。特に、虹の松原は国民の貴重な財産であり、県・市や地元住民等と密接な連携を図り、松くい虫の被害対策を推進する。

(3) 特に保護を図るべき森林に関する事項

貴重な自然環境を有する天然林等が多数存在しており、これらの森林については、生物多様性の保全を図るうえで重要であり、保護林として設定し適切に保護・保全を図っていくとともに、巡視活動やモニタリング調査を通じた適切な保全・管理を推進する。

(4) その他必要な事項

本計画区の国有林野の大半が水源かん養保安林に指定されているなど、水源涵養^{かん}の上で重要な森林が多く存在することから、保安林等の適切な管理に努める。

ニホンジカなどの野生鳥獣による森林被害については、その防止に向け、鳥獣保護管理施策や農業被害対策等との連携を図りつつ、被害状況の把握に努め、被害が発生した場合は、その結果を踏まえて、防護柵の設置等の防除活動や、地元行政機関、狩猟者団体、森林組合、森林所有者等との協力による計画的な捕獲等を総合的かつ効果的に推進する。

また、自然災害等により劣化した森林の再生・復元に努めるとともに、ボランティア団体等と協働・連携し、荒廃した植生の回復措置を行うなど、森林生態系の保全等のための取組について、環境行政との綿密な連携を確保しつつ推進する。

尾根筋や溪流沿い等の森林については、保護樹帯等として保全することを通じて、生物多様性の保全に努める。

3 林産物の供給に関する事項

(1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項

国有林材の計画的・安定的な供給を通じて、地域における安定供給体制の整備や木材の新たな需要の拡大、原木の加工・流通の合理化等に資するため、需要先と事前に協定を締結し、その協定に基づき計画的に丸太を供給する安定供給システム販売に取り組む。

さらに、民有林・国有林が連携しつつ合理的な販売・流通体制の確立を目指し、国産材の需要・販路の拡大に努める。

(2) その他必要な事項

林産物の供給に当たっては、効果的かつ効率的な取組を推進することとし、列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた高効率・低コストな作業システムによる木材生産やニーズに応じた安定供給に努める。

また、庁舎等の整備、森林土木工事等の公共工事においての、木材利用の促進に取り組む。

4 国有林野の活用に関する事項

(1) 国有林野の活用の推進方針

国有林野の活用に当たっては、地域の社会的・経済的状況、住民の意向等を考慮し、地域における産業の振興、住民の福祉の向上等に資するよう、国有林野の管理経営との調整を図りつつ、積極的に推進する。

本計画区南部に位置する有田団地は、周辺に水源林がないことから、その水源林としての役割は地域から高く評価されており、今後とも、水源の涵養等、公益的機能の増進に努める。

また、当団地は、「黒髪山自然休養林」にも指定され、保健休養やレクリエーションの場として、今後も住民の福祉向上等の観点から森林公園、多目的ダム等公用・公共用を中心に、国有林野の利活用を積極的に推進していく。

(2) 国有林野の活用の具体的手法

国有林野の活用に当たり、道路等の公用・公共用地等については貸付又は売払い等による。また、水源林造成等については分収林制度を積極的に活用する。

(3) その他必要な事項

該当なし。

5 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項

国有林野に隣接・介在する民有林野の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等から森林所有者等による施業が行われず、当該民有林野における土砂の流出等の発生が国有林野の発揮する国土保全等の機能に悪影響を及ぼすなど、国有林野の公益的機能の維持増進への支障となることが懸念される場合がある。

このような場合、国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るために有効かつ適切なものとして、森林施業の集約化を図るための林道や森林作業道の開設とこれらの路網を活用した施業等を民有林野と一体的に行い、民有林野の有する公益的機能の維持増進にも寄与するよう、公益的機能維持増進協定制度の活用を努める。

(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

公益的機能維持増進協定の締結に当たっては、民有林野の森林所有者等にも原則として相応の費用負担を求めるなど、合理的な役割分担の下での一体的な森林の整備及び保全の

実施に向けた条件整備を進める。

6 国民の参加による森林の整備に関する事項

(1) 国民参加の森林に関する事項

ボランティア団体等との協定に基づく「ふれあいの森」等により、国民の自主的な参加による森林整備活動等を推進する。

(2) 分収林に関する事項

森林に対する国民の要請が多様化する中で、社会貢献活動として森林づくりに自ら参加・協力したいという企業等の要請に応えるため、分収林制度の活用による森林整備を推進する。

(3) その他必要な事項

協定の締結により継続的に体験活動ができる「遊々の森」等を活用して、豊かな自然環境を有する国有林野を多様な体験活動の場として積極的に提供し、森林環境教育の推進に努める。

また、教職員やボランティアのリーダー等に対する普及啓発や技術指導、森林環境教育のプログラムや教材の提供等を積極的に推進する。

さらに、森林管理署等は、国民参加による森林の整備・保全等に関する情報の提供、国民からの相談への対応、国民参加の支援を行う拠点としての機能の発揮を行うよう努める。

「虹の松原」については、松原の景観保全に向けた気運の高まりを踏まえ、県、市等と連携を図りつつ、地域と一体となった保全・再生対策の推進に努める。

名 称	面 積 (ha)	位 置 (林小班)
SOUTHRAINBOW 守り守られる松南の森	2.64	126 は

7 その他国有林野の管理経営に関し必要な事項

(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項

研究機関等が行う林業技術の開発及び林業機械の導入試験等に対しては、フィールド提供を積極的に行う。

(2) 地域の振興に関する事項

機能類型に応じた適切な管理経営を行い、山地災害の防止、水源の涵養、自然環境の保全、保健・文化・教育的利用、木材の安定供給等を通じて地域振興に寄与するよう努める。

また、その際には次の点に留意する。

- ① 分収造林及び国有林野の利活用の要請に対しては積極的に対応する。
- ② 林道については、地域の実態を踏まえ、生活道路としての機能の発揮に十分留意する。
- ③ 蜂蜜の採取源となる樹種については、事業実行との調整を図りつつ、その保全に努める。

- (3) その他必要な事項
該当なし。

第6次国有林野施業実施計画書

(佐賀西部森林計画区)

計画期間

自	令和5年4月1日
至	令和10年3月31日

九州森林管理局

目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2	施業群の名称及び区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの 伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
(1)	伐採造林計画簿	1
(2)	水源涵養タイプにおける施業群別面積等	1
(3)	水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積	2
(4)	伐採総量	3
(5)	更新総量	4
(6)	保育総量	5
3	林道の整備に関する事項	5
4	治山に関する事項	6
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	7
(1)	保護林の名称及び区域	7
(2)	緑の回廊の名称及び区域	7
6	樹木採取区の名称、所在地及び面積	7
7	レクリエーションの森の名称及び区域	8
8	公益的機能維持増進協定の名称及び区域	8
9	その他必要な事項	8
(1)	施業指標林、試験地等	8
(2)	フィールドの提供	9
(3)	森林共同施業団地	9
(4)	その他	9
(付属資料)		
1	国有林野の現況	1 3
(1)	担当区別の区域及び面積	1 3
(2)	保安林、自然公園等の面積	1 4
(3)	林況（林種等別齢級別面積、蓄積及び成長量）	1 5
2	機能類型別の国有林野の現況	2 3
3	林道等の現況	2 4
4	収穫予想表	2 4
5	地元施設等の現況	2 4
別表 1	収穫予想表	2 5

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域の配置については、国有林野施業実施計画図による。

2 施業群の名称及び区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha)

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢等	
施業群	スギ・ヒノキ普通伐期	438.81	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	スギ 50 ヒノキ 55
	スギ長伐期	424.81	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	70
	ヒノキ長伐期	1,224.03	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	80
	アカマツ長伐期	1.41	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	80
	その他人工林	5.20	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	60
	保護樹帯	103.67	被害木等について択伐を行う	60
	スギ・ヒノキ複層林	283.16	伐採箇所の縮小、分散化による複層伐を行う	スギ 80 ヒノキ 85
	天然林長伐期	129.98	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による択伐及び皆伐を行う	100
	天然林広葉樹	78.94	伐採箇所の縮小、分散化による択伐及び皆伐を行う	35
	しいたけ原木	38.91	皆伐1回目以降は、ぼう芽更新を行う	20
施業群設定外	—			
合計	2,728.92			

(3) 水源涵養^{かん}タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	上限伐採面積	備考
通常伐期施業	43.00	スギ・ヒノキ普通伐期
		しいたけ原木
長伐期施業	117.00	スギ長伐期
		ヒノキ長伐期
		アカマツ長伐期
複層林施業	35.00	スギ・ヒノキ複層林
天然林・その他施業	45.00	その他人工林
		保護樹帯
		天然林長伐期
		天然林広葉樹

(4) 伐採総量

(単位：m³,ha)

区 分	林 地					林地以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計		
山地災害防止タイプ	1,537	13,735 (153)	15,272				
自然維持タイプ	—	—	—				
森林空間利用タイプ	—	—	—				
快適環境形成タイプ	—	—	—				
水源 涵養 タイプ	スギ・ヒノキ普通伐期	36,057	36,057				
	スギ長伐期	159	19,835				
	ヒノキ長伐期	—	58,431				
	スギ・ヒノキ複層林	19,962	21,103				
	その他人工林	—	—				
	保護樹帯	—	—				
	計	56,178	79,248 (850)	135,426			
合 計	57,715	92,983 (1,002)	150,698	10,302	161,000	—	161,000
年 平 均	11,543	18,597 (200)	30,140	2,060	32,200	—	32,200

注1 () は間伐面積である。

2 四捨五入の関係で計と内訳の合計が一致しないことがある。

(再掲) 市町村別内訳

(単位：m³)

市町村名	林地				林地以外	合計
	主伐	間伐	小計	臨時伐採量		
唐津市	47,012	42,826	89,838	/	/	/
伊万里市	9,263	38,145	47,408			
有田町	1,440	12,012	13,452			

注 臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

(5) 更新総量

(単位：ha)

区分		山地災害防止タイプ [°]	自然維持タイプ [°]	森林空間利用タイプ [°]	快適環境形成タイプ [°]	水源涵養タイプ [°]	合計
人工造林	単層林成	—	—	—	—	89.20	89.20
	複層林成	2.82	—	—	—	39.73	42.55
	計	2.82	—	—	—	128.93	131.75
天然更新	天然下種第1類	—	—	—	—	—	—
	天然下種第2類	—	—	—	—	—	—
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—
合計		2.82	—	—	—	128.93	131.75

(6) 保育総量

(単位：ha)

区分	山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合計	
保育	下刈	1.68	—	—	—	498.95	500.63
	つる切	—	—	—	—	108.77	108.77
	除伐	25.27	—	—	—	110.55	135.82
	ぼう芽整理	—	—	—	—	—	—
	計	26.95	—	—	—	718.27	745.22

3 林道の整備に関する事項

基幹・ その他別	開設・ 改良	路線名	箇所（林班）	延長 （m）	備考
その他	開設	日南郷1035林道	1035	1,120	
		広川106林道	106	500	
		烏帽子1028林道	1028	1,000	
		白峯114林道	112、114	1,000	
基幹	改良	烏帽子林道	1030、1031	2,000	舗装等
		屋敷林道	111	1,000	舗装等
		山瀬林道	108、110	1,600	舗装等
その他	改良	ネゴロ林道	1032、1033	1,800	舗装等
		烏帽子林道1025支線	1025、1027	2,000	舗装等
計	開設			3,620	4路線
	改良			8,400	6箇所

4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量 (箇所数又は面積)
101、106、108～116、123、125、126、 1006、1007、1019、1020、1022～1028、 1032～1038	保 安 林 整 備	本 数 調 整 伐	140ha
101、103、111、114、115、117、 119～123、1004、1006、1008、1009、 1012、1013、1014、1018、1020、1022、 1026、1031	保 全 施 設	溪 間 工	19箇所
101、103、106、107、109～112、116、 119、1003、1006、1008、1011～1014、 1017、1018、1020、1023～1026	保 全 施 設	山 腹 工	21箇所
計	保 安 林 整 備		140ha
	保 全 施 設		40箇所

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

種類	名称	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	備考
希少個体群 保護林	浮岳アカガシ遺伝 資源希少個体群保 護林	23.24	124り、よ	希少化しているアカガシ及 びアカガシ群落の構成種の 保全及び林木遺伝資源の保 存を目的に設定	
	山砥スダジイ等希 少個体群保護林	1.37	1035つ、1037め	主にスギ・ヒノキ等の人工 林や農地の土地利用が盛ん な国見岳周辺にあって、希 少な林分構造が発達するス ダジイ、アカガシヤブツバ キなどから成るスダジイ群 落の保全を目的に設定	
合計	2箇所	24.61			

(2) 緑の回廊の名称及び区域

名称	延長 (km)	面積 (ha)	位置 (林小班)	特 徴 等	備 考
該当なし					
合計					

6 樹木採取区の名称、所在地及び面積

名 称	所 在 地 (林 小 班)	面 積 (ha)	備 考
該当なし			

7 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備考
風致探勝林	虹の松原風致探勝林	210.47	125い～い2、 は、は1 126に～と、 わ～よ	玄海国定公園内にあって、日本三大松原の一つといわれ、白砂青松の景観は特に優れており、年間を通じて観光客は多い。また、夏季には海水浴場やキャンプ場としても親しまれている。	育成単層林へ導くための施業	公園敷 駐車場 道路敷 防火用水 唐津市長	無	
			125ろ～ろ3、 126い～は、 ち～る、 そ		天然生林へ導くための施業			
			125イ～へ、 チ 126イ、ロ、 ニ、ホ、 ヌ、ル、 ソ		林地以外の土地			
計		210.47						
合計		210.47						

8 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

名称	区域 (林小班)	面積 (ha)	森林施業 の種類	林道の等 開設	設定年及び 有効期限	備考
該当なし	民 国					

9 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定 年度	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
遺伝子保存林	ノゴミアカマツ	S50	0.35	112は	
次代検定林	九熊本第9号	S45	1.57	119よ	
施業指標林	天然林施業指標林	H1	1.20	1030へ	

(2) フィールドの提供

対象地（林小班）	設 定 の 目 的	備 考
126は	遊々の森	平成20年1月10日協定 唐津南高等学校

(3) 森林共同施業団地

名 称	対 象 地 (林 小 班)	面 積 (ha)	協 定 の 概 要
該当なし	民 国		

(4) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置 (林 小 班)	面積 (ha)	施 業 方 法
126は1、は2、た、れ	1.51	育成単層林へ導くための施業
109る、か 1006ろ、ほ、り、ぬ、か、た1、れ1 1007へ2、ぬ 1008ろ 1009ね、ら、む 1020ほ、と〜り	39.65	育成複層林へ導くための施業
107ろ、は 109よ、た 116よ 124へ〜ち 1006い、は、へ、ち、る、わ、よ〜た、れ、そ 1007へ、へ3、り、る〜わ1 1008は 1009ろ〜ち、つ、な 1018に〜へ 1019ゆ 1020い〜に、へ、ぬ、る、わ、か	275.13	天然生林へ導くための施業
109イ〜ハ 125ト 126ハ、へ〜リ、ワ〜レ	7.01	林地以外の土地
計	323.30	

注 ふれあいの森その他森林空間利用タイプに設定している施業指標林、試験地等を除く。

附 属 资 料

1 国有林野の現況

(1) 担当区別の区域及び面積

(単位：ha)

担当区	関係 市町村	要 存 置 林 野		不要存 置林野 面積	官 行 造林地 面積
		面 積	関係林小班		
唐津	唐津市	2,280.45	101～117、119～127	3.57	54.16
計		2,280.45		3.57	54.16
伊万里	伊万里市	1,669.36	1001～1007、1025～1038	—	49.60
	有田町	1,232.18	1008～1024	—	38.31
計		2,901.54		—	87.91
合計		5,181.99		3.57	142.07

(2) 保安林、自然公園等の面積

(単位：ha)

種類及び区分		森林管理署別				
		佐賀		合計		
保安林	水源かん養保安林		4,146.06		4,146.06	
	土砂流出防備保安林	(5.50)	1.51	(5.50)	1.51	
	土砂崩壊防備保安林	(9.88)	40.18	(9.88)	40.18	
	飛砂防備保安林					
	防風保安林		205.01		205.01	
	水害防備保安林					
	潮害防備保安林	(204.29)		(204.29)		
	干害防備保安林	(109.47)		(109.47)		
	防雪保安林					
	防霧保安林					
	なだれ防止保安林					
	落石防止保安林					
	防火保安林					
	魚つき保安林	(1.81)		(1.81)		
	航行目標保安林	(25.44)		(25.44)		
	保健保安林	(862.26)	0.31	(862.26)	0.31	
	風致保安林					
	計	(1,218.65)	4,393.07	(1,218.65)	4,393.07	
	保安施設地区					
砂防指定地						
制限林	国立公園	特別保護地区				
		第一種特別地域				
		第二種特別地域				
		第三種特別地域				
		地種区分未定特別地域				
	計					
	国定公園	特別保護地区				
		第一種特別地域	(189.51)	2.57	(189.51)	2.57
		第二種特別地域	(12.52)	8.20	(12.52)	8.20
		第三種特別地域	(106.97)	3.02	(106.97)	3.02
		地種区分未定特別地域				
	計	(309.00)	13.79	(309.00)	13.79	
	都道府県立自然公園	第一種特別地域	(3.60)		(3.60)	
		第二種特別地域	(118.64)	12.19	(118.64)	12.19
		第三種特別地域	(557.13)	7.58	(557.13)	7.58
		地種区分未定特別地域				
		計	(679.37)	19.77	(679.37)	19.77
	原生自然環境保全地域					
	自然環境保全地域特別地区					
都道府県自然環境保全地域特別地区						
鳥獣保護区特別保護地区						
都市緑地保全法による緑地保全地区						
都市計画法による風致地区	(209.34)	0.16	(209.34)	0.16		
林業種苗法による特別母樹林						
史跡名勝天然記念物	(215.23)	0.73	(215.23)	0.73		
種の保存法による管理地区						
その他の制限林	(0.20)	35.61	(0.20)	35.61		
制限林計	(2,631.79)	4,463.13	(2,631.79)	4,463.13		
普通林	国立公園普通地区					
	国定公園普通地区					
	都道府県立自然公園普通地区	(1,171.44)	29.79	(1,171.44)	29.79	
	自然環境保全地域普通地区					
	都道府県自然環境保全地域普通地区					
	鳥獣保護区普通地区	(1,449.48)	28.62	(1,449.48)	28.62	
	種の保存法による監視地区					
	その他の法指定地域(普通林)	(0.31)		(0.31)		
普通林計	(2,621.23)	58.41	(2,621.23)	58.41		
法指定地域合計	(5,253.02)	4,521.54	(5,253.02)	4,521.54		

注 () 書きは、重複分。

(3) 林況（林種別齡級別面積、材積及び成長量）

森林計画区：132 佐賀西部

(単位 面積：ha、材積：m³、成長量：m³/年)

区分			総数			1 齡 級			2 齡 級			
			面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	
林地	人	育成 単層林	N	820,546	19,655.4							
			L	51,968	500.8							
			計	2,630.15	872,514	20,156.2	38.74			60.52		
	工	育成 複層林	N	45,098	535.3		6,422			5,565		
			L	(124.57)								
			計	124.57	45,098	535.3	73.14	6,422		51.43	5,565	
	林	計	N		865,644	20,190.7		6,422			5,565	
			L		51,968	500.8						
			計	2,754.72	917,612	20,691.5	111.88	6,422		111.95	5,565	
	天然 林	育成 単層林	N									
			L		1,003	60.1						
			計	17.46	1,003	60.1				1.81		
		育成 複層林	N		7,061	48.2						
			L		14,953	66.8						
			計	99.83	22,014	115.0						
		天然 林	計	N		55,175	118.4					
				L		276,463	1,236.5					
				計	2,023.62	331,638	1,354.9					
		計	計	N		62,236	166.6					
				L		292,419	1,363.4					
計				2,140.91	354,655	1,530.0				1.81		
竹林												
無立木地	計	N										
		L										
		計	54.56									
計	計	N		927,880	20,357.3		6,422			5,565		
		L		344,387	1,864.2							
		計	4,950.19	1,272,267	22,221.5	111.88	6,422		113.76	5,565		
林地 以外の 土地	附帯地 貸地 雑地		52.98									
			89.46	252								
			89.36									
	計	N		252								
	L											
	計	231.80	252									
合計	計	N		928,132	20,357.3		6,422			5,565		
		L		344,387	1,864.2							
		計	5,181.99	1,272,519	22,221.5	111.88	6,422		113.76	5,565		

注1 ()は、複層林の上木面積。

2 材積には、点生木及び被害木を含む。

(単位 面積：ha、材積：m³、成長量：m³/年)

区分			3 齢 級			4 齢 級			5 齢 級				
			面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³		
林地	人	育成 単層林	N		569	106.3		487	75.5		3,519	394.4	
			L		16	2.3		28	2.8		98	6.6	
			計	22.74	585	108.6	10.78	515	78.3	32.60	3,617	401.0	
	工	育成 複層林	N										
			L										
			計										
	林	計	N		569	106.3		487	75.5		3,519	394.4	
			L		16	2.3		28	2.8		98	6.6	
			計	22.74	585	108.6	10.78	515	78.3	32.60	3,617	401.0	
	天	育成 単層林	N										
			L								584	41.4	
			計							10.55	584	41.4	
	然	育成 複層林	N										
			L										
			計										
	林	天然 林	N										
			L					591	52.0		1,571	91.8	
			計				5.42	591	52.0	23.70	1,571	91.8	
	計	計	N										
			L					591	52.0		2,155	133.2	
			計				5.42	591	52.0	34.25	2,155	133.2	
竹林													
無立木地	計	N											
		L											
		計											
計	計	N		569	106.3		487	75.5		3,519	394.4		
		L		16	2.3		619	54.8		2,253	139.8		
		計	22.74	585	108.6	16.20	1,106	130.3	66.85	5,772	534.2		
林地 以外の 土地	附帯地 貸地 雑地	N											
		L											
		計											
合 計	計	N		569	106.3		487	75.5		3,519	394.4		
		L		16	2.3		619	54.8		2,253	139.8		
		計	22.74	585	108.6	16.20	1,106	130.3	66.85	5,772	534.2		

注1 ()は、複層林の上木面積。

2 材積には、点生木及び被害木を含む。

(単位 面積：ha、材積：m³、成長量：m³/年)

区分			6 齢 級			7 齢 級			8 齢 級				
			面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³		
林地	人	育成 単層林	N	10,896	904.9		11,310	713.3		43,757	2,017.3		
			L		822	38.6		183	6.4		2,120	54.2	
			計	52.78	11,718	943.5	49.37	11,493	719.7	152.47	45,877	2,071.5	
	工	育成 複層林	N										
			L										
			計										
	林	計	N	10,896	904.9		11,310	713.3		43,757	2,017.3		
			L		822	38.6		183	6.4		2,120	54.2	
			計	52.78	11,718	943.5	49.37	11,493	719.7	152.47	45,877	2,071.5	
	天然 林	育成 単層林	N										
			L		419	18.7							
			計	5.10	419	18.7							
		育成 複層林	N										
			L										
			計										
		天 生	天然 林	N				2	0.1				
				L		1,864	91.5		3,306	115.3		5,600	145.2
				計	24.39	1,864	91.5	35.68	3,308	115.4	50.53	5,600	145.2
	林	計	N				2	0.1					
			L		2,283	110.2		3,306	115.3		5,600	145.2	
計			29.49	2,283	110.2	35.68	3,308	115.4	50.53	5,600	145.2		
竹 林													
無立木地	N												
	L												
	計												
計	N	10,896	904.9		11,312	713.4		43,757	2,017.3				
	L		3,105	148.8		3,489	121.7		7,720	199.4			
	計	82.27	14,001	1,053.7	85.05	14,801	835.1	203.00	51,477	2,216.7			
林地 以外 の 土地	附帯地 貸地 雑地	N											
		L											
		計											
合 計	N	10,896	904.9		11,312	713.4		43,757	2,017.3				
	L		3,105	148.8		3,489	121.7		7,720	199.4			
	計	82.27	14,001	1,053.7	85.05	14,801	835.1	203.00	51,477	2,216.7			

注1 () は、複層林の上木面積。

2 材積には、点生木及び被害木を含む。

(単位 面積：ha、材積：m³、成長量：m³/年)

区 分			9 齢 級			1 0 齢 級			1 1 齢 級		
			面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³
林地	人	育成 単層林	N	74,091	2,681.0	140,248	3,883.9	189,478	4,134.3		
			L	2,363	45.9	1,722	27.0	3,827	46.8		
			計	229.04	76,454	2,726.9	372.72	141,970	3,910.9	490.11	193,305
	工	育成 複層林	N						9,500	203.4	
			L								
			計						(43.28)	9,500	203.4
	林	計	N	74,091	2,681.0	140,248	3,883.9	198,978	4,337.7		
			L	2,363	45.9	1,722	27.0	3,827	46.8		
			計	229.04	76,454	2,726.9	372.72	141,970	3,910.9	490.11	202,805
	天 然 林	育成 単層林	N								
			L								
			計								
		育成 複層林	N				4	0.2			
			L				6	0.2			
			計				0.14	10	0.4		
		天 生 林	計	N	7	0.1	79	1.6	5	0.1	
				L	370	6.8	3,831	55.2	9,220	105.8	
				計	3.72	377	6.9	28.62	3,910	56.8	49.22
	林	計	N	7	0.1	83	1.8	5	0.1		
			L	370	6.8	3,837	55.4	9,220	105.8		
			計	3.72	377	6.9	28.76	3,920	57.2	49.22	9,225
竹 林											
無立木地	計	N									
		L									
		計									
計	N	74,098	2,681.1	140,331	3,885.7	198,983	4,337.8				
	L	2,733	52.7	5,559	82.4	13,047	152.6				
	計	232.76	76,831	2,733.8	401.48	145,890	3,968.1	539.33	212,030	4,490.4	
林地 以外 の 土地	附帯地 貸地 雑地 計	N									
		L									
		計									
合 計	計	N	74,098	2,681.1	140,331	3,885.7	198,983	4,337.8			
		L	2,733	52.7	5,559	82.4	13,047	152.6			
		計	232.76	76,831	2,733.8	401.48	145,890	3,968.1	539.33	212,030	4,490.4

注1 () は、複層林の上木面積。

2 材積には、点生木及び被害木を含む。

(単位 面積：ha、材積：m³、成長量：m³/年)

区 分			1 2 齢 級			1 3 齢 級			1 4 齢 級				
			面 積	材 積	成 長 量	面 積	材 積	成 長 量	面 積	材 積	成 長 量		
			ha	m ³	m ³	ha	m ³	m ³	ha	m ³	m ³		
林地	人	育成 単層林	N	160,321	2,727.7		88,372	1,159.0		46,808	486.4		
			L	9,445	96.8		5,769	45.8		8,671	56.0		
			計	465.24	169,766	2,824.5	259.63	94,141	1,204.8	176.36	55,479	542.4	
	工	育成 複層林	N		15,472	251.6					8,139	80.3	
			L										
			計	(53.93)	15,472	251.6				(27.36)	8,139	80.3	
	林	計	N		175,793	2,979.3		88,372	1,159.0		54,947	566.7	
			L		9,445	96.8		5,769	45.8		8,671	56.0	
			計	465.24	185,238	3,076.1	259.63	94,141	1,204.8	176.36	63,618	622.7	
	天然 林	育成 単層林	N										
			L										
			計										
		育成 複層林	N		573	10.2		684	8.8		997	10.5	
			L		943	9.7		1,360	11.9		2,024	13.6	
			計	6.65	1,516	19.9	10.13	2,044	20.7	12.87	3,021	24.1	
		天然 林	計	N		2,523	35.3		1,721	18.1		1,001	9.3
				L		13,434	133.4		11,907	92.1		11,690	77.3
				計	97.89	15,957	168.7	79.30	13,628	110.2	67.76	12,691	86.6
		竹 林	計	N		3,096	45.5		2,405	26.9		1,998	19.8
				L		14,377	143.1		13,267	104.0		13,714	90.9
				計	104.54	17,473	188.6	89.43	15,672	130.9	80.63	15,712	110.7
無立木地	計	N											
		L											
		計											
	計	N		178,889	3,024.8		90,777	1,185.9		56,945	586.5		
		L		23,822	239.9		19,036	149.8		22,385	146.9		
		計	569.78	202,711	3,264.7	349.06	109,813	1,335.7	256.99	79,330	733.4		
林地 以外の 土地	附帯地 貸地 雑地	N											
		L											
		計											
合 計	計	N		178,889	3,024.8		90,777	1,185.9		56,945	586.5		
		L		23,822	239.9		19,036	149.8		22,385	146.9		
		計	569.78	202,711	3,264.7	349.06	109,813	1,335.7	256.99	79,330	733.4		

注1 () は、複層林の上木面積。
 2 材積には、点生木及び被害木を含む。

(単位 面積：ha、材積：m³、成長量：m³/年)

区分			15 齢 級			16 齢 級			17 齢 級			
			面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	
林地	人	育成 単層林	N	41,696	354.4		1,522	9.8		900	4.6	
			L	13,663	70.3		49	0.3		21	0.1	
			計	169.79	55,359	424.7	4.63	1,571	10.1	4.39	921	4.7
		育成 複層林	N									
			L									
			計									
	計	N		41,696	354.4		1,522	9.8		900	4.6	
		L		13,663	70.3		49	0.3		21	0.1	
		計	169.79	55,359	424.7	4.63	1,571	10.1	4.39	921	4.7	
	天然 林	育成 単層林	N									
			L									
			計									
		育成 複層林	N		1,782	13.6		135	0.9			
			L		3,935	19.9		361	1.4			
			計	23.75	5,717	33.5	1.99	496	2.3			
		天然 林	N		5,678	38.6		1,858	10.5		1,092	3.6
			L		27,554	141.0		17,698	70.8		11,191	33.7
			計	194.80	33,232	179.6	108.04	19,556	81.3	64.10	12,283	37.3
		計	N		7,460	52.2		1,993	11.4		1,092	3.6
			L		31,489	160.9		18,059	72.2		11,191	33.7
			計	218.55	38,949	213.1	110.03	20,052	83.6	64.10	12,283	37.3
竹林												
無立木地	N											
	L											
	計											
計	N		49,156	406.6		3,515	21.2		1,992	8.2		
	L		45,152	231.2		18,108	72.5		11,212	33.8		
	計	388.34	94,308	637.8	114.66	21,623	93.7	68.49	13,204	42.0		
林地 以外の 土地	附帯地 貸地 雑地	N										
		L										
		計										
合計	N		49,156	406.6		3,515	21.2		1,992	8.2		
	L		45,152	231.2		18,108	72.5		11,212	33.8		
	計	388.34	94,308	637.8	114.66	21,623	93.7	68.49	13,204	42.0		

注1 () は、複層林の上木面積。

2 材積には、点生木及び被害木を含む。

(単位 面積：ha、材積：m³、成長量：m³/年)

区 分			1 8 齢 級			1 9 齢 級			2 0 齢 級			
			面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	面積 ha	材積 m ³	成長量 m ³	
林地	人	育成 単層林	N	411	1.0		977	1.6		1,106		
			L	52	0.1		798	0.8		944		
			計	1.37	463	1.1	5.67	1,775	2.4	7.31	2,050	
	工	育成 複層林	N									
			L									
			計									
	林	計	N	411	1.0		977	1.6		1,106		
			L	52	0.1		798	0.8		944		
			計	1.37	463	1.1	5.67	1,775	2.4	7.31	2,050	
	天 然 林	育成 単層林	N									
			L									
			計									
		育成 複層林	N	1,525	2.8		1,203	1.2				
			L	4,291	8.5		1,559	1.6				
			計	31.14	5,816	11.3	9.87	2,762	2.8			
		天 生 林	計	N	370	0.4		1,454	0.7		555	
				L	3,802	7.6		18,396	17.0		13,000	
				計	26.22	4,172	8.0	126.06	19,850	17.7	84.77	13,555
	林	計	N	1,895	3.2		2,657	1.9		555		
			L	8,093	16.1		19,955	18.6		13,000		
			計	57.36	9,988	19.3	135.93	22,612	20.5	84.77	13,555	
竹 林												
無立木地	計	N										
		L										
		計										
計	N	2,306	4.2		3,634	3.5		1,661				
	L	8,145	16.2		20,753	19.4		13,944				
	計	58.73	10,451	20.4	141.60	24,387	22.9	92.08	15,605			
林地 以外 の 土地	附帯地 貸地 雑地	N										
		L										
		計										
合 計	計	N	2,306	4.2		3,634	3.5		1,661			
		L	8,145	16.2		20,753	19.4		13,944			
		計	58.73	10,451	20.4	141.60	24,387	22.9	92.08	15,605		

注1 () は、複層林の上木面積。

2 材積には、点生木及び被害木を含む。

(単位 面積：ha、材積：m³、成長量：m³/年)

区 分			2 1 齢 級 以 上			
			面 積	材 積	成 長 量	
			ha	m ³	m ³	
林地	人	育成 単層林	N		4,078	
			L		1,377	
			計	23.89	5,455	
	工 林	育成 複層林	N			
			L			
			計			
		計	N		4,078	
			L		1,377	
			計	23.89	5,455	
	天 然 林	育成 単層林	N			
			L			
			計			
		育成 複層林	N		158	
			L		474	
			計	3.29	632	
		天 生 林	天然 林	N		38,830
				L		121,438
				計	953.40	160,268
		計	N		38,988	
			L		121,912	
			計	956.69	160,900	
竹 林						
無立木地	無立木地	N				
		L				
		計				
	計	N		43,066		
		L		123,289		
		計	980.58	166,355		
林地 以外 の 土地	附帯地 貸地 雑地	N				
		L				
		計				
合 計	計	N		43,066		
		L		123,289		
		計	980.58	166,355		

注1 () は、複層林の上木面積。

2 材積には、点生木及び被害木を含む。

2 機能類型別の国有林野の現況

森林計画区：132 佐賀西部

(単位 面積：ha、材積：m³)

機能類型 林種		山地災害防止タイプ					快適環境形成タイプ		水源涵養タイプ		自然維持タイプ		森林空間利用タイプ		合計		
		土砂流出崩壊防備		気象害防備		計		面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積	材積
		面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積	材積
人工林	育成単層林	256.76	84,015			256.76	84,015			2,246.60	749,346	81.65	26,382	45.14	12,771	2,630.15	872,514
	育成複層林	27.36	10,999			27.36	10,999			97.21	34,099					124.57	45,098
	小計	284.12	95,014			284.12	95,014			2,343.81	783,445	81.65	26,382	45.14	12,771	2,754.72	917,612
天然林	育成単層林									17.46	1,003					17.46	1,003
	育成複層林	54.26	10,763			54.26	10,763			31.22	7,542	4.74	946	9.61	2,763	99.83	22,014
	天然生林	790.22	126,168	1.79	168	792.01	126,336			281.87	43,816	489.81	81,079	459.93	80,407	2,023.62	331,638
	小計	844.48	136,931	1.79	168	846.27	137,099			330.55	52,361	494.55	82,025	469.54	83,170	2,140.91	354,655
無立木地										54.56						54.56	
竹林																	
林地計		1,128.60	231,945	1.79	168	1,130.39	232,113			2,728.92	835,806	576.20	108,407	514.68	95,941	4,950.19	1,272,267
林地以外		57.18		0.02		57.20				105.31		50.20		19.09	252	231.80	252
合計		1,185.78	231,945	1.81	168	1,187.59	232,113			2,834.23	835,806	626.40	108,407	533.77	96,193	5,181.99	1,272,519

注1 <>は、機能類型区分外で内書き。

2 ()は、竹林の面積及び材積で外書き。

3 林道等の現況

(単位：百m)

区 分	林 道			作業道
	自動車道	軽車道	合 計	
延 長	383.0	6.0	389.0	192.0

4 収穫予想表

「別表1」のとおり

5 地元施設等の現況

(単位：ha)

区 分		面 積
分収造林契約に基づく分収林		316.13
分収育林契約に基づく分収林		7.57
共 用 林 野	普 通	—
	薪 炭	—
	放 牧	—
	合 計	—
貸 地	植 樹 用 地	—
	農 耕 用 地	—
	鉱 業 用 地	—
	道 路 用 地	47.93
	水 路 用 地	4.29
	電 気 事 業 用 地	25.22
	温 鉱 泉 用 地	—
	採 草 放 牧 用 地	—
	学 校 用 地	—
	建 物 用 地	1.63
	そ の 他 貸 地	10.39
	合 計	89.46

別表1 収穫予想表

林 齢	樹 種		スギ				地 位			2					
	主 林 木						副 林 木			主 副 林 木 合 計					
	平均 胸高 直径 cm	平均 樹高 m	h a 当 た り				h a 当 た り			h a 当 た り					成 長 率 %
			本 数	幹 材 積 m ³	連 年 成 長 量 m ³	平 均 成 長 量 m ³	本 数	幹 材 積 m ³	幹 材 積 累 計 m ³	本 数	幹 材 積 m ³	連 年 成 長 量 m ³	総 収 穫 量 m ³	平 均 成 長 量 m ³	
10	5.1	5.8		26		2.6			0		26		26	2.6	
					4.8							8.2			17.6
15	7.9	7.6	2,150	50		3.3	1,000	17	17	3,150	67		67	4.5	
					7.0							11.2			14.4
20	10.7	9.3	1,660	85		4.3	490	21	38	2,150	106		123	6.2	
					8.8							13.6			11.4
25	14.0	11.0	1,350	129		5.2	310	24	62	1,660	153		191	7.6	
					9.8							15.0			9.0
30	16.9	12.6	1,140	178		5.9	210	26	88	1,350	204		266	8.9	
					9.2							14.2			6.7
35	19.5	13.9	1,000	224		6.4	140	25	113	1,140	249		337	9.6	
					8.0							12.4			4.9
40	21.8	14.9	905	264		6.6	95	22	135	1,000	286		399	10.0	
					6.6							10.2			3.5
45	23.6	15.7	840	297		6.6	65	18	153	905	315		450	10.0	
					5.6							8.8			2.8
50	25.1	16.3	790	325		6.5	50	16	169	840	341		494	9.9	
					4.8							7.4			2.2
55	26.4	16.9	750	349		6.3	40	13	182	790	362		531	9.7	
					4.0							6.2			1.7
60	27.5	17.4	720	369		6.2	30	11	193	750	380		562	9.4	
					3.4							5.0			1.3
65	28.5	17.8	700	386		5.9	20	8	201	720	394		587	9.0	
					3.0							4.2			1.1
70	29.3	18.1	685	401		5.7	15	6	207		407		608	8.7	
					2.6							3.4			0.8
75	29.9	18.4	675	414		5.5	10	4	211	685	418		625	8.3	
					2.2							2.6			0.6
80	30.3	18.6	670	425		5.3	5	2	213		427		638	8.0	

林 齢	樹 種		ヒノキ				地 位			2					
	主 林 木						副 林 木			主 副 林 木 合 計					
	平均 胸高 直径 cm	平均 樹高 m	h a 当 たり				h a 当 たり			h a 当 たり					成 長 率 %
			本 数	幹 材 積 m ³	連 年 成 長 量 m ³	平 均 成 長 量 m ³	本 数	幹 材 積 m ³	幹 材 積 累 計 m ³	本 数	幹 材 積 m ³	連 年 成 長 量 m ³	総 収 穫 量 m ³	平 均 成 長 量 m ³	
10	4.2	5.1		14		1.4			0		14		14	1.4	
						3.6							4.8		18.9
15	6.6	6.3	2,580	32		2.1	1,020	6	6	3,600	38		38	2.5	
						5.6							7.4		14.1
20	9.0	7.5	2,010	60		3.0	570	9	15	2,580	69		75	3.8	
						6.8							9.0		10.9
25	11.6	8.8	1,660	94		3.8	350	11	26	2,010	105		120	4.8	
						7.4							9.8		8.4
30	14.2	10.1	1,420	131		4.4	240	12	38	1,660	143		169	5.6	
						7.2							9.6		6.2
35	16.4	11.2	1,270	167		4.8	150	12	50	1,420	179		217	6.2	
						6.8							9.0		4.7
40	18.2	12.0	1,170	201		5.0	100	11	61	1,270	212		262	6.6	
						6.0							8.0		3.6
45	19.8	12.7	1,100	231		5.1	70	10	71	1,170	241		302	6.7	
						5.2							6.8		2.7
50	21.1	13.3	1,050	257		5.1	50	8	79	1,100	265		336	6.7	
						4.2							5.6		2.1
55	22.2	13.7	1,010	278		5.1	40	7	86	1,050	285		364	6.6	
						3.6							4.8		1.7
60	23.2	14.1	980	296		4.9	30	6	92	1,010	302		388	6.5	
						3.2							4.2		1.4
65	23.9	14.4	960	312		4.8	20	5	97	980	317		409	6.3	
						2.8							3.6		1.1
70	24.5	14.7	945	326		4.7	15	4	101	960	330		427	6.1	
						2.4							3.0		0.9
75	24.9	14.9	935	338		4.5	10	3	104	945	341		442	5.9	
						1.8							2.4		0.7
80	25.3	15.0	925	347		4.3	10	3	107	935	350		454	5.7	

林 齡	樹 種		マ ツ				地 位			2					
	主 林 木						副 林 木			主 副 林 木 合 計					
	平均 胸高 直径 cm	平均 樹高 m	h a 当 た り				h a 当 た り			h a 当 た り					成 長 率 %
			本 数	幹 材 積 m ³	連 年 成 長 量 m ³	平 均 成 長 量 m ³	本 数	幹 材 積 m ³	幹 材 積 累 計 m ³	本 数	幹 材 積 m ³	連 年 成 長 量 m ³	総 収 穫 量 m ³	平 均 成 長 量 m ³	
10	5.0	3.3	4,270	16		1.6			0		16		16	1.6	
					3.8							4.8			17.1
15	7.3	5.3	3,056	35		2.3	1,214	5	5	4,270	40		40	2.7	
					5.6							7.0			13.3
20	9.8	7.0	2,319	63		3.2	737	7	12	3,056	70		75	3.8	
					6.2							8.0			9.6
25	11.8	8.6	1,887	94		3.8	432	9	21	2,319	103		115	4.6	
					6.0							8.0			7.0
30	14.3	9.8	1,567	124		4.1	320	10	31	1,887	134		155	5.2	
					4.4							6.8			4.8
35	16.3	10.9	1,325	146		4.2	242	12	43	1,567	158		189	5.4	
					3.8							6.0			3.7
40	17.9	11.8	1,137	165		4.1	188	11	54	1,325	176		219	5.5	
					2.8							4.8			2.7
45	19.5	12.5	994	179		4.0	143	10	64	1,137	189		243	5.4	
					2.0							4.0			2.1
50	20.9	13.2	880	189		3.8	114	10	74	994	199		263	5.3	
					1.6							3.4			1.7
55	22.0	13.7	794	197		3.6	86	9	83	880	206		280	5.1	
					1.2							2.8			1.4
60	23.3	14.2	723	203		3.4	71	8	91	794	211		294	4.9	
					0.6							2.2			1.0
65	24.4	14.7	662	206		3.2	61	8	99	723	214		305	4.7	
					0.6							2.2			1.0
70	25.3	15.1	614	209		3.0	48	8	107	662	217		316	4.5	

林 齡	樹 種		広葉樹				地 位			2					
	主 林 木						副 林 木			主 副 林 木 合 計					
	平均 胸高 直径	平均 樹高	h a 当 たり				h a 当 たり			h a 当 たり					成 長 率 %
			本 数	幹 材 積 m ³	連 年 成 長 量 m ³	平 均 成 長 量 m ³	本 数	幹 材 積 m ³	幹 材 積 累 計 m ³	本 数	幹 材 積 m ³	連 年 成 長 量 m ³	総 収 穫 量 m ³	平 均 成 長 量 m ³	
cm	m														
10			14		1.4					14		14	1.4		
					2.8							2.8		13.3	
15			28		1.9					28		28	1.9		
					3.4							3.4		9.3	
20			45		2.3					45		45	2.3		
					3.8							3.8		7.0	
25			64		2.6					64		64	2.6		
					3.6							3.6		4.4	
30			82		2.7					82		82	2.7		
					3.0							3.0		3.4	
35			97		2.8					97		97	2.8		
					2.4							2.4		2.8	
40			109		2.7					109		109	2.7		
					2.0							2.0		1.8	
45			119		2.6					119		119	2.6		
					1.8							1.8		1.5	
50			128		2.6					128		128	2.6		
					1.6							1.6		1.2	
55			136		2.5					136		136	2.5		
					1.4							1.4		1.0	
60			143		2.4					143		143	2.4		
					1.2							1.2		0.8	
65			149		2.3					149		149	2.3		
					1.0							1.0		0.7	
70			154		2.2					154		154	2.2		
					0.8							0.8		0.5	
75			158		2.1					158		158	2.1		
					0.6							0.6		0.4	
80			161		2.0					161		161	2.0		